


# 扇小レポート758 指揮者

音楽室の廊下に貼ってありました。

「指揮者って、だれでもできるの??」と「ヒマラヤ杉ってなあに?」。音楽の先生が、放送でも話してくれました。

## 『指揮者って、だれでもできるの??』




みなさんは、指揮者を知っていますか?  
土井先生がよく前に出て、手をふっていますね。  
それが指揮者です!」  
ある日、この質問をもらいました。  
『指揮者ってだれでもできるの?』

この質問に今日は答えたいと思います。「手をふるだけ」なら誰でもできますが、ちゃんとした指揮は簡単ではありません。たとえば有名な指揮者のカラヤンやバースタインは、ただ手を動かしているわけではなく、**音楽全体をコントロールしています。指揮者の役割は4つあります。**

- ①リズムを正確に示す  
テンポがズレると演奏はバラバラになるので、安定した拍を出す必要があります。
- ②表現を伝える  
「ここはやさしく」「ここは強く」など、音のニュアンスを体で伝えます。  
全体を聴く力  
どの人がどのように歌っているのかを同時に把握して、バランスを整えます。
- ③事前の準備【これが1番大切です】  
楽譜を読み込んで「どういう音楽にしたいか」を決めておかないと、  
ただの身振り、手振りというただのジェスチャーになります。  
はじめは ✓拍を一定に振る ✓入りの合図を出す  
これだけでも十分「指揮」になりますが、レベルが上がるほど  
「音楽を作る仕事」になるので、一気に難しくなります。  
指揮者の役割をまとめると『全員の手をまとめる人』指揮者が振れると全体が崩れるポジション。指揮者は目立つ役ではなく『みんなを支える役』ということです。次の音楽祭では土井先生の指揮に注目してみてくださいね。

## 校歌2番に出てくる『ヒマラヤ杉』ってなあに??




ヒマラヤ杉は、名前の通りヒマラヤ山脈周辺を原産とする、とても大きく育つ針葉樹です。  
日本でも公園や学校、神社などでよく見かける存在感のある木です。  
特徴は・・・

- 『とても背が高い』成長すると20〜30m以上にもなることがあり、遠くからでも目立ちます。
- 『枝がしなやかに垂れる』横に広がった枝の先が少し下に垂れるのが特徴で、やわらかい印象になります。
- 『葉は細くてチクチクする』松に似ていますが、少しやわらかめで、青緑色っぽい葉です。
- 『松ぼっくりのような実』大きめで丸い球状の実をつけます。

ちなみに名前に「スギ」とついています。日本のスギ(花輪で有名な木)とは別の種類で、ヒマラヤ杉は主に観賞用として植えられることが多いです。

扇小学校は、池の横に植えられているので見てみてくださいね。

## では、なんて扇小学校に植えられているか知っていますか??



1番の大きい理由は『シンボルになる木』だからです。  
ヒマラヤスギはまっすぐ高く育つので、「成長」「たくましさ」「未来へ伸びる」といった意味を込めて、学校の象徴として植えられることが多いです。校歌や文章に登場する学校もあります。次に『目録をつくる役割』もあります。大きく広がるので、夏に子どもたちが休める木陰をつくってくれます。  
だから校歌の歌詞にヒマラヤ杉のかげは揺れていると書かれているんですよ!  
つまりヒマラヤ杉は『昔の人が願いを込めて植えた、学校のシンボルツリー』です。これから、校歌を歌うときに少し歌い方や感じ方が変わるかもしれません!

歌だけでも、このような「？」がどんどん出てくる扇小学校です。